

8月の都内経済状況






項目	天気図	コメント
現在の景気動向		8月の都内の景気は、全体として緩やかに回復している。スーパー、百貨店、コンビニエンスストア、乗用車販売は前年を上回った。住宅着工と公共投資は前年を下回ったが、輸出は前年を上回った。7～9月期の設備投資は増加見込み、経常利益は減益見込みとなっている（法人企業）。有効求人倍率は前月からわずかに低下した。企業倒産件数は前年を下回った。
今後の見通し（3ヵ月）		都内の景気は、インバウンド需要が堅調に推移している。物価の上昇等の影響が懸念されるが、引き続き緩やかな回復が期待される。
個人消費費	百貨店売上高	 百貨店売上高は、前年同月比 6.1%増（既存店ベース）と 36ヵ月連続で前年を上回った。身の回り品などの高付加価値商材が牽引したほか、衣料品では季節商材が好調。インバウンド需要も引き続き堅調に推移した。
	スーパー売上高	 スーパーの売上高は、前年同月比 5.4%増（既存店ベース）と前年を上回った。前年よりも土曜日が1日多い曜日めぐりや、地震や台風に対する備蓄需要の高まりにより、客単価が上昇した。
	コンビニ売上（関東）	 関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比 1.0%増（全店ベース）と 33ヵ月連続、東京都の売上高は前年同月比 1.8%増（全店ベース）と 36ヵ月連続で前年を上回った。
	乗用車販売台数	 乗用車販売台数（軽を含む）は、前年同月比 1.0%と前年を上回った。車種別では、普通車（同 1.3%増）は2ヵ月連続、小型車（同 3.7%増）は10ヵ月ぶりに前年を上回ったが、軽乗用車（同▲3.3%）は8ヵ月連続で前年を下回った。
住宅建設	 8月の住宅着工戸数は、前年同月比▲4.4%と4ヵ月連続で前年を下回った。利用関係別では、持家（同 1.7%増）、貸家（同 12.6%増）は増加したが、分譲一戸建て（同▲20.2%）は6ヵ月連続、分譲マンション（同▲34.3%）は5ヵ月ぶりに減少した。	
公共投資	 公共工事請負金額は、前年同月比▲3.7%と4ヵ月連続で減少した。発注者別では、独立行政法人（同▲18.9%）、都県（同▲30.9%）、地方公社（同▲30.6%）は減少したが、国（同 20.6%増）、市区町村（同 59.9%増）は増加した。	
貿易（東京税関管内）	 東京税関管内の輸出額は、前年同月比 15.9%増と9ヵ月連続で前年を上回った。主要地域別では、アジア向け（同 16.2%増）は9ヵ月連続、アメリカ合衆国向け（同 12.9%増）は10ヵ月連続、中国向け（同 13.7%増）は9ヵ月連続で前年を上回ったが、EU向け（同▲1.3%）は5ヵ月ぶりに前年を下回った。	
設備投資（法人企業）	 東京財務事務所「法人企業景気予測調査（7～9月調査）」によると、都内の法人企業（資本金1千万円以上）の2024年度の設備投資計画額は、全産業が前年比 16.6%増の増加見込み、業種別では製造業が同 27.1%増、非製造業は同 11.8%増といずれも増加見込みとなっている。	
企業収益（法人企業）	 同上調査によると、都内の法人企業（同上）の2024年度の経常利益は、全産業が前年比▲4.1%の減益見込み、業種別では製造業が同▲10.1%、非製造業は同▲1.1%といずれも減益見込みとなっている。	
労働需給	 有効求人倍率（季調値）は、1.76倍と前月から0.08ポイント低下した。先行指標とされる新規求人数は前年同月比▲8.3%で4ヵ月ぶりに前年を下回った。南関東の完全失業率は2.5%と前月から0.3ポイント低下した。	
企業倒産	 企業倒産件数は、前年同月比▲7.1%と前年を下回った。負債総額も同▲38.1%と前年を下回った。業種別では、小売業（同 45.5%増）、卸売業（同 33.3%増）などが増加、建設業（同▲38.9%）、宿泊業・飲食サービス業（同▲33.3%）などは減少した。	
資金需要（銀行）	 銀行の都内向け貸出残高は、前年同月比 5.9%増と 156ヵ月連続で前年同月を上回っている。増加幅は前月から 1.2ポイント減少したものの、高い伸び率を維持した。	

工業生産指数（季調値） （ ）は前年同月比%	工業在庫指数（季調値） （ ）は前年同月比%	消費者物価指数 （ ）は前年同月比%	（一ロメモ） 令和6年の東京都基準地価格 東京都財務局によると、都内全用途の地価変動率は12年連続でプラスとなった。令和6年1月1日現在の都の総人口は1,391万1,902人（前年比70,237人増）、同年6月末のJ-REITの運用資産額は23兆1,619億円（同3.8%増）となっており、人口増加や投資規模の拡大が地価上昇の一因と考えられる。
5月 107.0（ 4.9）	5月 92.7（▲7.6）	6月 107.5（2.3）	
6月 107.9（▲3.8）	6月 101.8（ 4.4）	7月 107.8（2.2）	
7月 113.5（ 7.3）	7月 96.6（▲1.0）	8月 108.4（2.6）	

\*工業生産指数・在庫指数・消費者物価指数は2020年平均=100。

\*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨